

日田での仕事、暮らし
大人たちに聞いてみよう。

そして

未来の自分のことも考えてみよう。

氏名、年齢、連絡先を左記に電話又はメール
で連絡し、参加してください。

詳しい内容は「日田しごと学び舎」のホーム
ページ (<http://hitashigoto.main.jp/>) をご覧
ください。

※この事業は、市民サービス共同事業の一つとして、
市と日田仕事学び舎が共同で実施しています。

市と日田仕事学び舎が共同で実施しています。

☎0973-233111 hitashigoto@gmail.com

高校生が仕事と未来を考える 僕らのみらい会議

12月10日(日)

午後1時～3時 アオーゼ

参加無料・高校生対象

第1部 日田の今を知る 林業編
しごと大解剖

第2部 高校生×大人
仕事本音バトル
日田で暮らすことは幸せ？
大人たちに本音を聞こう！



市長コラム

坂の上の雲を探して

50

7月の豪雨災害から5か月が経ち、現在、応急復興や災害査定のための調査・設計などの工事関係の推進と、創造的な復旧・復興を目指し、様々な対応策を検討・模索しているところです。

24年の豪雨災害、28年の地震災害、そして、今回の豪雨災害を経験し、常に新たな備えや対応策を準備してきたのですが、今回も「想定外」に直面してしまったのが現実でした。

国土交通省が出版した「災害初動期指揮心得」の中に、「備えていたことしか役に立たなかった。備えていただけでは十分ではなかった」と東日本大震災の反省が記されています。危機管理においては、日頃から災害に対する危機意識と対策や訓練が必要だとされています。このことは、行政・民間問わず、改めて重要なことだと思われ知らされました。

そんな中、先日「シン・ゴジラ」という映画が放映されました。時には、人間界に危機を招く悪役として、また、ある時は地球を救うヒーローとして登場してきた「ゴジラ」ですが、今回の映画では、危機の象徴としてその存在を見せられたような映画でした。設定は、「ゴジラが東京湾に出現し、都心で暴れる」という、いつもの怪獣映画ですが、今回の視点は、危機管理の視点から作られた映画でした。怪獣という非現実的な危機を「大災害」や「戦争」に置き換えると、リアリティをもって考えさせられる映画です。危機管理においては、最悪の事態に備え、様々な判断を曖昧にせず、対応が後手に回らないようにすることが必要だと再認識しました。

今年も1年が終わろうとしています。被災された方や、市民の皆さんも、多くの経験をした1年となったのではないのでしょうか。この経験が無駄にならないよう、反省と対応を踏まえ、来年は、災害の無い「希望」に向かう年となることを願っています。



広報ひたは、資源保護のため古紙再生紙と植物油インキを使用しています。